

第2節 健康管理の取組

(1) 施策体系図にある目標

- 受診しやすい環境の整備や受診勧奨を行い、定期的に健診を受診する市民を増やす【各種健診】
- 生活習慣病の重症化予防を推進する【糖尿病・循環器疾患・がん】

(2) これまでの主な取組

【各種健診】

共 助

- ・愛育委員が健康づくりカレンダーを配布し、年間の健診日程を周知しました。
 - ・愛育委員が各種健(検)診の必要性を伝えたり、受診勧奨や会場の運営に協力しました。
- (※以下 糖尿病・循環器疾患・がんの共助も同様)

公 助

- ・乳幼児健診の対象児に対して、個人通知を郵送し受診勧奨しました。また未受診児に対して、ハガキや電話、訪問等の受診勧奨を行いました。
 - ・児童生徒に対し、病気の予防と早期発見を目的に健康診断を行い、健康の保持増進に努めました。
 - ・40歳から74歳を対象に、生活習慣病の発症や重症化を防ぐための特定健診を実施し、また75歳以上を対象に、疾病の早期発見や早期治療を目的とする後期高齢者健診を実施しました。
- (※以下 糖尿病・循環器疾患の公助も同様)
- ・特定健診、後期高齢者健診について、受診しやすい体制づくりを推進し、希望者が受診場所を選択できるよう、受診率の向上のために個別医療機関の確保に努めました。
 - ・特定健診によって生活習慣病リスクが高い対象者に対して、生活習慣改善に関する情報提供や保健指導を行いました。

【糖尿病】

共 助

- ・自主グループが、糖尿病と上手につきあう方法について学習しました。

公 助

- ・市内の医療機関による院内の医療チームによる患者向け教室を実施しました。
- ・糖尿病性腎症重症化予防のため、医師会の協力を得て重症化予防プログラムを実施しました。

【循環器疾患】

共 助

- ・自主グループが、脂質異常症の予防や改善を目的に活動しました。

【がん】

公 助

- ・がんの早期発見や早期治療によって、がんによる死亡率を減少させるため、各種がん検診を実施しました。(胃がん検診、肺がん検診、大腸がん検診、乳がん検診、子宮頸部がん検診、前立腺がん検診)

- 各種がん検診について、受診しやすい体制づくりを推進し、希望者が受診場所を選択できるよう、受診率の向上のために個別医療機関の確保に努めました。
- がん検診実施後、精密検査対象者に対し、個別に受診勧奨を行いました。

(3) 中間評価の結果

【各種健診】

- 乳児健診，1歳6か月児健診，3歳児健診の受診率は共に95%以上を維持しており，目標に達しています。
- 特定健診の受診率は26.7%と策定時から年々増加していますが，目標に達していませんでした。(図22)
- 特定保健指導は低い実施率を推移しています。(図23)
- メタボリックシンドロームの該当者及び予備群については，策定時と比較すると増加傾向にあります。

図 22 特定健診受診率の推移

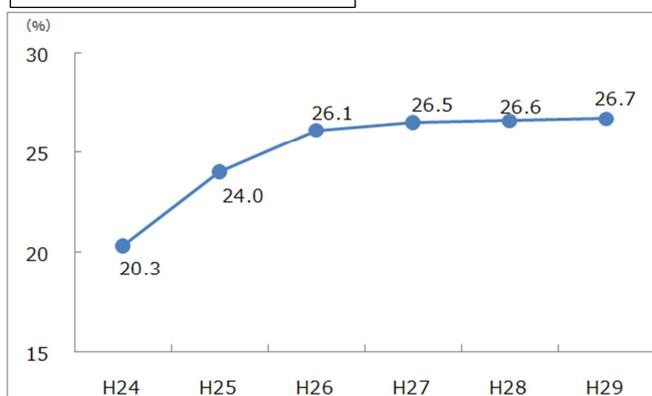
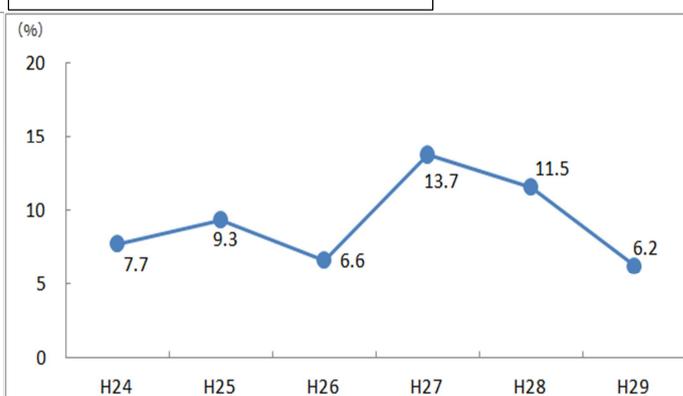


図 23 特定保健指導実施率の推移



【糖尿病】

- 糖尿病有病者の割合は，策定時と中間評価時ではデータの取り方が変わっているため，評価困難としました。
- 糖尿病治療継続者の割合は58.2%でした。

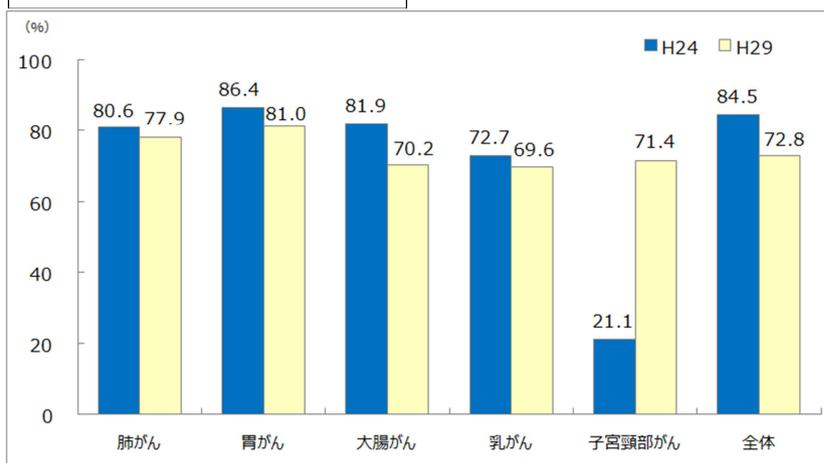
【循環器疾患】

- 血圧有病者の割合は，策定時と中間評価時ではデータの取り方が変わっているため，評価困難としました。
- 血圧治療継続者の割合は87.7%でした。
- みのる世代の認知機能ハイリスク高齢者の把握率については，中間評価時に国と同様，基本チェックリストにて把握することとしていましたが，国の法改正に伴う事業見直しにより「健康日本21（第二次）」の指標が変更されていました。第2期計画においても指標の変更が必要です。

【がん】

- 各種がん検診の受診率については，策定時と中間評価時で対象者の算出方法が変更になったため，目標も含めて検討が必要です。
- 精検受診率については，策定時と比較し全体的に減少していますが，子宮頸部がん検診の精検受診率は大幅に上昇しています。その理由として，一次検診実施医療機関から情報提供を受けたことが大きいと考えられました。(図24)

図 24 がん検診精検受診率の比較



(4) 今後の課題

【各種健診】

- 受診率 95%以上を維持する為、引き続き乳児健診、1歳6か月児健診、3歳児健診の未受診児へ対し、受診勧奨が必要です。
- 特定健診受診率については改善されていますが、目標には達していないため、さらなる受診勧奨の対策が必要です。
- 特定健診等で要指導の指示がある者に対して、必要であれば早期に治療に結びつけ、食事や運動面についての個別指導をわかりやすく行う必要があります。
- メタボリックシンドロームの該当者及び予備軍の割合が増加しており、食事、運動、喫煙対策など予防に関する普及啓発が必要です。

【糖尿病】

- 糖尿病の治療中断者が約 4 割おり、治療中断は合併症の発症など、重症化につながることから、早期の保健指導、治療継続支援などが必要です。
- 糖尿病の重症化予防に努め、引き続き医療機関と連携しながら重症化予防プログラムを継続する必要があります。

【循環器疾患】

- 高血圧症の治療中断者は約 1 割おり、高血圧の放置は心血管疾患につながることから、早期の保健指導、治療継続支援などが必要です。

【がん】

- がんに関する正しい知識の普及啓発とともに、がん検診受診率のさらなる向上に努める必要があります。
- 地域や職域を問わず、がん検診の受診が可能となるような受診しやすい検診体制が必要です。
- 若い世代に対するがん検診の受診の必要性を普及啓発する必要があります。
- がん精密検診が必要な場合は、必ず受診するように指導を徹底する必要があります。



(5) 今後の方向性

【各種健診】

- 早めに受診予定を立てる事が出来るよう、個別通知の時期の検討や電子母子手帳の導入等、受診しやすい体制づくりに努めます。
- 乳幼児健診未受診児への受診勧奨を引き続き行います。
- 児童生徒の病気の予防や早期発見のために、引き続き、健康診断結果の精度管理に努めます。
- 特定健診については、生活習慣病の早期発見や早期治療に向けて未受診者に対しての受診勧奨に努めます。
- 特定保健指導については、訪問等で勧奨に取り組むとともに効果につながる保健指導に努めます。

【糖尿病】

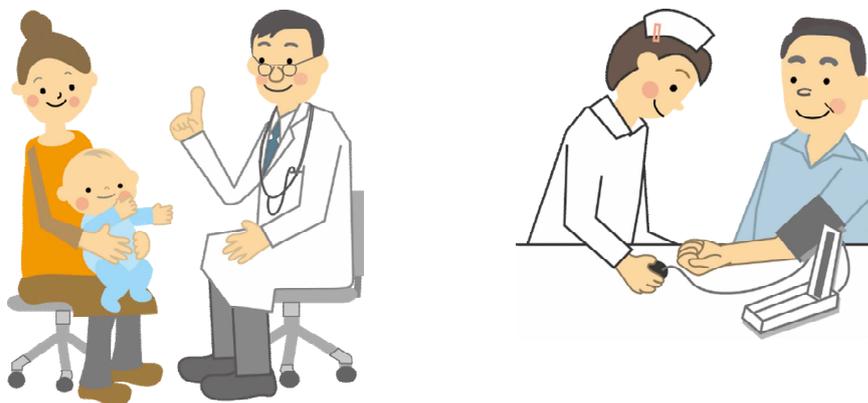
- 糖尿病の重症化予防に努め、引き続き医療機関と連携しながら重症化予防プログラムを実施します。

【循環器疾患】

- 高血圧治療ガイドラインに基づき、特定健診受診者の結果を血圧に基づいた脳心血管リスク層別化し、リスクの高い方への保健指導を行います。

【がん】

- がん検診は、特定健診との同時実施や女性が一日ですべての健（検）診を受診することができるレディース健診の設定、土日に検診を行う等、引き続き受診しやすい体制づくりに努めます。また、新たに他の保険者と連携することにより、働く世代へ検診の必要性を普及するとともに、検診の機会を工夫する等、受診しやすい環境づくりに努め、受診率の向上を目指します。
- 愛育委員と連携し、がんに関する正しい知識や検診の必要性についての普及啓発、検診の受診勧奨を行います。
- 精密検査が必要と判断された人が確実に受診するよう受診勧奨を実施し、なおかつ一定期間を過ぎても受診していない人には、個別に受診の再勧奨を行います。



■指標の変更について

指標「認知機能ハイリスク高齢者の把握率」

〈変更前〉「認知機能ハイリスク高齢者の把握率」

〈変更後〉「認知症サポーター数」の増加

中間評価時 4,644名 目標：増加

変更理由：国の法改正に伴う事業見直しによる「健康日本21（第二次）」の指標の変更に
 伴い、国と同じ指標に変更

■目標の変更について

指標 「各種がん検診受診率」

	中間評価時	目 標	
		変更前	変更後
胃がん検診	5.0%	50%	10%
肺がん検診	14.0%	50%	30%
大腸がん検診	7.6%	50%	20%
乳がん検診	8.4%	50%	20%
子宮頸部がん検診	8.9%	50%	20%

変更理由：国とは受診率の算出方法が異なり、比較困難のため目標を変更

笠岡市は40歳から74歳のがん検診受診率に重点をおいて、中間評価時の数
 値を基礎とし、最終評価時に向けて約2倍に増加させる目標を設定

